平河町通信

令和8年
4月1日
第92号

発行
内外政治
研究G
代表 宮田修一

安定的皇位継承

12県議会で「議論促進」の意見書

衆参正副議長と各会派が「全体会議」へ

安定的な皇位継承に向けて各会派が協議する「全体会議」が今月1日、1年ぶりに再開されます。2月の衆院選後に就任した森英介衆院議長の公邸に、衆参の正副議長と各会派の責任者が集まります。

具体的な皇族数の確保策について「旧皇族の男系男子を皇族の養子とする案」と「女性皇族が婚姻後も皇族の身分を保持する案」に絞られる中、与党の自民と維新は衆院選の公約に、前者を第一優先とすることを明記しています。

政府与党内では、早ければ5月の大型連休前にも立法府の総意として方向性をとりまとめ、通常国会中（7月17日会期末）に皇室典範の改正を目指したい意向と言われます。

6月議会でも18道府県が意見書可決へ

こうした中、県議会での「国会議論の促進」を求める意見書可決が3月末時点で12県にのぼりました。さらに18道府県議会が6月議会での可決を目指しており、皇統維持のための国民の声が日増しに大きくなっています。

中道も見解統一に着手

一方、野党の中道改革連合は3月30日に「検討本部（笠浩史本部長）」が結党後初めてとなる会合を開催して党見解の取りまとめに着手。立憲の代表だった野田佳彦氏らがいまだに身勝手な持論で抵抗していますが、党内の旧公明議員らの動きや笠本部長の手腕に期待が集まっています。

3月末に可決された岐阜県議会の意見書

沖縄・辺野古沖事故

「平和学習」を隠れ蓑にした左翼教育の悲劇

沖縄県名護市の辺野古沖で同志社国際高校（京都府）の生徒たちが乗った「ヘリ基地反対協議会」の小型船が転覆し、女子高生と船長が亡くなった事故は、「平和」を隠れ蓑に使った「イデオロギー教育」がもたらした悲劇とも言えます。

同校は抗議活動と何ら変わらない危険な海上行動を平和学習だと説き、引率の教師も付けないで無保険のまま、生徒たちを小さな船に乗り込ませたのです。

「反対協議会」に自治労や民放労連も支援

小型船を運用していた「ヘリ基地反対協議会」は平成9年（1997）に労組や左派政党などで組織され、彼らを支援する「辺野古基金」には全国各地の教職員組合や自治労の地方組合などが寄付を続けています。これには共産党系「全労連」傘下で、全国のテレビ局職員が加入する「民放労連」も加わっています。

2年前には陸上で警備員事故死の悲劇

辺野古地区は、米軍の訓練場「キャンプシュワブ」の沿岸域にあり、沖合では普天間飛行場（宜野湾市）からのヘリ基地移設のための埋め立て工事が行われています。

これとは別に、陸上のキャンプシュワブ沿いにある土砂の搬入口では、基地反対協と連携する団体の活動家たちが、ダンプの出入りを阻止する活動をしています。平成6年（2024）6月には、抗議中にダンプの前に飛び出した70代の女性活動家を制止して守ろうとした警備員がダンプにぶつかって亡くなる痛ましい事故が起きています。

メディアが「市民団体」と呼ぶ活動組織

産経新聞などを除く多くのメディアはこうした抗議活動を聖域化して、彼らを「市民団体」と呼び、その暴力性を伝えることを怠って来ました。これには、共産党を中心とする「オール沖縄」勢力に担がれた玉城知事が暴力的な活動を野放しにしてきたという現実も影響しています。

実況検分の夜にスナックで泥酔した船長

今回の事故では基地反対協の幹部らが謝罪の記者会見をしましたが、活動の現場にいるような身なりや、腕組みをしてふんぞり返る姿が批判を受けました。

「平和丸」の40代の船長はかつて日本共産党公認で出身地の村議選に出馬して落選。デイリー新潮などによると、今回の事故では、実況見分に立ち会った夜、スナックで泥酔。その帰りの出航について、「あの人際に、波浪注意報の中で（死亡した「不屈」の船長）の判断だから。俺は決める権利ない」などと語ったといいます。

【写真】工事の境界ブイに突っ込んだ「平和丸」
令和7年1月（撮影：当通信の桃原裕輝編集員）